

圓谷定一

午前七時訓練生が友はソク
愛車にうち跨つた愛馬でない
マラリと勢ぞろひした見事さ
よ……

主事代理挨拶の後一同記念撮
影、藤田教官殿の色々の訓示
ありて午前九時車首をそろひ
愈々出發となつた……

野上等兵を傾けてゐる……
一頁……二頁……三頁……
谷はなほよみつゞけてゆく
園谷「海よさらば……舟よ
さらば……曇の夕暮れ早く
ラホラ電燈光る頃二列……湯
本街道歸途につく、空遠く雷
鳴がきこえて薄暗くなる。雨
がチラーリ降つて来た。
皆の者元氣だ、前の方では
こゝは御國の何百里、離れて
遠き滿洲の……高らかに歌ひ
出す、後の方ではネエ、愛
し頂戴……

藤田「待て……」藤田教官
は大喝して止めた、そして言
葉を吐いて……

藤田「そこだ……文は大層
よかつたが、行軍中に演習が
すんだとは言へ歌を歌つた者
がある……併も卑猥きはまる
俗語を……そしてそのまゝ記
載をしてある、行軍を規を亂
すも甚だしい……これが縣下
に名ある平青年訓練生の仕態
かと言ふ事を判らんのか？
歴史ある平訓練所の爲にも甚
だけしからんではないか……
俺はさう云ふだらしない教育
はしなかつた、心意だぞ……
向も嚴肅な口調で……

藤田「中野、園谷……此の新
聞を見る者は平町の人々ばか
りではないぞ、磐城郡全體、
いや福島縣内、縣廳までも行
くのだ……それに在郷軍人も澤
山ある、心ある者は之れを見
たら一體どう思ふだらう、判
らん事はあるまい？
藤田教官の一言一句に二人
は段々頭を下げて沈んで来る

訓練の或る朝(一幕)

藤田「この俺が小名濱で使
用が勃發して歸途の行動を共
にする事の出た得なかつた事
は甚だ残念だつた……」

園谷「一寸……」

藤田「中野お前が引率して
来たのだから判らぬだらう、ほ
んどうにさう云ふ不心意の歌
を歌つた者があつたか？
後の方々の者さうから多分初
めなかつたのだ、何故注意し
ては呉れなかつたのだ、名譽
ある平訓練團の爲に……訓練
する意味のものにも……

中野上等兵キツ頭を上げて
中野「教官殿私が悪う御座
りました、私の不行届きです
何共申し譯ありません、皆ん
なに對して申し譯ない次第
です、みんな私の監督がいた
らなかつたのです、いかに
其の責を負ひます。」

中野上等兵は興奮してなほも
云ひ續ける。

中野「どんな處分にも應じ
ます、皆さんをして頭をうな
だせて……」

園谷「教官殿……自費にた
いられないと云ふ面持で
藤田「教官殿……悪いのは私
です、外の誰でもありません
私が筆の走るまでもない事を書
いたから飛んでもない事を書い
てしまひました、責は私にあ
るのです、私をお責め下さい
園谷「教官殿上等兵殿は知
らない事です、なんで上等兵
等に罪が及びます、中野上等
兵殿は吾々訓練生の最も親
しい兄さんです、何から何ま
で面倒を見て呉れます、皆ん
なはどんなに感謝してゐるか
知りません、皆兄さんの様に
敬つてゐます、其の行軍の際
も自轉車の破損した者をいた
わつて、おくれた者について
ひまを、一寸もこの事につい
ては知らなかつた等です、上
等兵殿には罪はありません、
ごさでも罪は私にあるので
下さい。」

中野上等兵は沈鬱な面を上げ
て園谷の面を見た、そして何
か云はふとしたが、園谷の熱

氣ばんだ泪のうかんだ眼を見
て又面を下げる。
藤田教官は今まで黙つてうな
づいてゐたがやがて
藤田「園谷お前が書いた行
軍の感想を公表すると云ふ事
は訓練所に取つて非常に結構
な事ではあるが一應は書いた
記事を上官に見せなさいとい
ふ、筆のあやまりを誰にもあ
見せなかつたか？あまりにな
ないがしるにしたものでは
ないか。」

旗本風流陣

徳川幕府倒れんとして正に新
政府の樹立近く世は幕末、此
の秋に當り徳川三百年の恩顧
忘れ難い旗本八萬餘騎の會津
藩主松平容保を擁して事起さ
んとする。

中「古手川七之助、敬馬の兄
弟、○問源十郎と言へる者あ
る、前者は主戦論を固守し後
者は古戦論を死守し兩方相違
らず、古手川兄弟は容保の命
を受けて奥羽地方に遊説に出
たが、將軍の内室天(院)の命
を受けた○問源十郎の爲に阻
止される、扱ては七之助と二
世をかけて千重さへも源十郎
と策して七之助の事業を
阻止せんとした七之助兄弟の
憂慮、長男、土、肥の聯
合、此の時七之助兄弟は松平
容保の命を受けて幕府の軍用
金十萬兩を苦心の末手に入れ
たが時既に遅く、桑二藩は
官軍と衝突したのであつたが
戦利あらず、淀川下りの小舟
に難を避けた將軍慶喜夫妻、
これを守るに一切蟬りの解け
た古手川兄弟と源十郎、千重
て行く世は幕末(終り)平館

五色葵 護る

平町新川町
電話一三三番

五色葵 護る
平町新川町
電話一三三番

佛國マルソー會社元詰
生葡萄酒
マルソー・アランク・白 1.10
マルソー・ルー・ジ・赤
良品にして安價賣行飛ぶが如し
西村屋藥局

貸家あり
平町新川町十七番地
商店向き
家賃十四圓五十錢
平町新川町
中野勇吉
電話一三三番

氷販賣業開始
四倉町字本町
勿來製氷株式會社
特約販賣店 **新宅商店**
庄司新太郎
尚氷は年中無休迅速に配達致し候間御用の
際は……(電話呼出一四二番)……へ御願申上候

味噌と油醬
山崎合名會社
福島縣平町
電話(營業部専用)一〇番
電話(一般用)二七番
振替東京一九七五五番
上野車坂四三
東京支店
電話下谷五七二番
振替東京六八三二番

本日大海海戦五十二年記念大映畫
助援御 省軍海
大日活會社 空前の壯舉
滅撃
下閣生長原笠小・將軍海・間願・作原

日本海海戦は皇國の興廢を一舉に決し、國威を世界に發揚したる
光輝ある歴史として吾人日本國民の忘る可からざる處である。
此の海戦二十五周年を迎へるに當り小笠原中將閣下の原作に基き
映畫(滅撃)を製作して迎へるに當り小笠原中將閣下の原作に基き
されに際して帝國海軍後援の下に當局各位が畫像を發行し御指導
を下され且つ破格の便宜を與へられたる事は感謝の極である、
殊に東郷元帥閣下が此舉に賛同せられたる事は誠に映畫に於けるに
承諾せられたるは本映畫の最も誇りとする所以である。
謹んで敬意を表す

日活傑作中の傑作・原作 佐々木味津三
小川隆・梅村蓉子・主演
武士津 **旗本風流陣** 全
清川壯司・永井寛二郎・磯川元泰 助演
中山介・澤村泰子・山本絹江 助演
監督・佛生寺彌作
松竹蒲田超大作名畫
昭和娘・都會風景の
活劇 **夜の牝猫** 全
入雲美子・岡田宗太郎・木村健兒
藤野秀夫・横尾泥海男・石山龍洞 共演
七月三日 破額通普 日活 **平館** 電 466

平新川町十九
木村病院
電話一六四

産科 院長 木村寅次郎
婦人科 女醫 木村コウ
内臓外科 醫學士 松永憲一
整形外科 醫學士 萩原駿二
藥局 東京藥學士 萩原駿二

病室完備 平町南町
外科專門 X光線科
上田外科醫院
電話一二九番